

第9回エデュカーレ in たかはし

日本社会の光と影

～森永ヒ素ミルク中毒事件から考える日本社会～

報 告 書

開催日時：平成28年7月10日(日) 14時00分～17時00分

会 場：高梁まち・ひと・くらし市民交流センター（ポルカ2階）

主 催：エデュカーレ in たかはし実行委員会

協 力：吉備国際大学社会科学部 井勝研究室

1. はじめに

エデュカーレ in たかはしは、私たち学生が地域の皆様と関わらせていただくことにより、学生が実践的な課題解決能力を身に付け、社会に貢献できる人材となることを目的として開催させて頂くものです。

第9回エデュカーレ in たかはしは、60年前に起こった森永ヒ素ミルク中毒事件を題材として開催することにしました。森永ヒ素ミルク中毒事件は様々な社会課題を浮かび上がらせました。事件後、国は規制強化などを行いましたが、その後も教訓が活かされていない事件が起きています。福島第一原発事故後の国や企業の対応も森永ヒ素ミルク中毒事件後の対応と共通の力が働いていると考えることができます。

森永ヒ素ミルク中毒事件から60年を経て日本社会はどのように変化したのでしょうか。この中毒事件を題材として、公害被害者への企業や国の対応がどのようなものであったかを学び、二度とこのような事件が起きないようにするために必要な社会のあり方について議論しました。

2. 実施内容

1) オープニング

- ①実行委員長あいさつ
- ②プログラムの説明

2) グループ分け&アイスブレイク

- ・漢字クイズ

3) 講演&質疑

- ①講演①「森永ヒ素ミルク中毒事件の60年」
- ②グループ内ダイアログで意見交換と質問の検討
- ③各グループが質問をして岡崎さんが回答
- ④講演②「森永ヒ素ミルク中毒事件の現状」
- ⑤グループ内ダイアログで意見交換と質問の検討
- ⑥各グループが質問をして岡崎さんが回答

4) ワークショップ

(1) 事件の原因の洗い出し

- ①ブレインストーミング
- ②KJ法
- ③ピラミッドランキング
- ④各グループの発表

(2) 再発防止策

(ダイヤモンドランキングでトップの項目について再発防止策を考える)

- ①ブレインストーミング
- ②ペイオフマトリックスの作成
- ③発表

(3) コメント

岡崎さんのコメント

5) チェックアウト

- ①再発防止に向けて私にできることの記入
- ②グループ内で発表

6) エンディング

- ①アンケート記入
- ②閉会挨拶

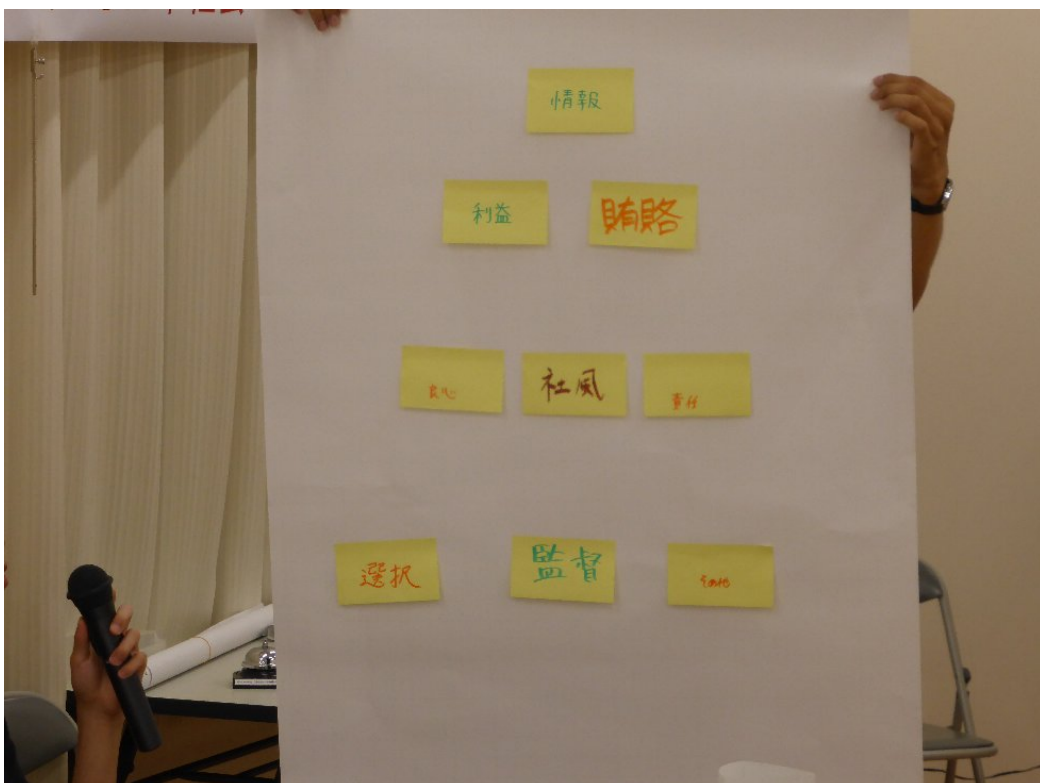
3. 実施結果

今回は参加者募集に失敗し、一般の参加者が1名という状況となってしまい、実行委員が参加者という状況になってしまったが、岡崎さんのお話を聞いて、意義深いワークショップができた。

今回は初めての試みとして、講演を2回に分けて行い、講演後にグループ内での意見交換と岡崎さんへの質問時間を取った。この方法は、講演内容を理解するためにとっても良い方法であることが分かった。

事件の原因の洗い出しは、ブレインストーミングとKJ法で原因の洗い出しを行った後、ピラミッドランキングを行い、最も重要と思われる原因の特定を行った。各グループが出した結果を以下に示す。

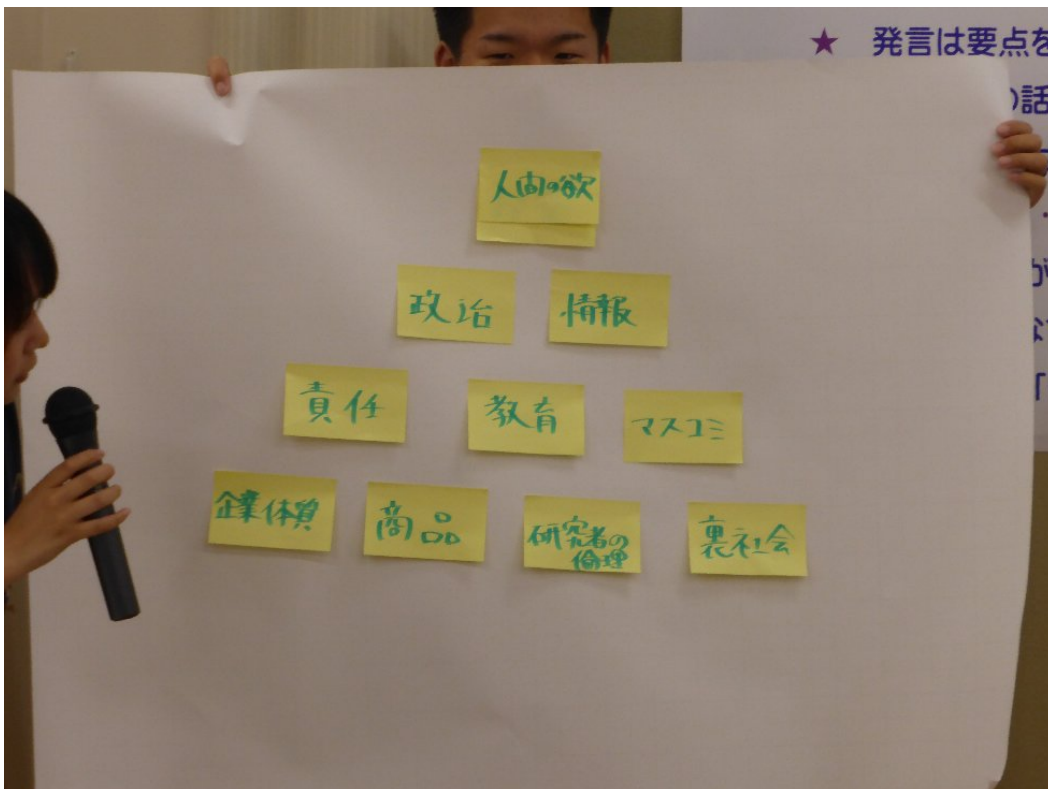
第一グループは、「情報」を最も重要な原因として特定した。



第二グループは「意識」を最も重要な原因として特定した。

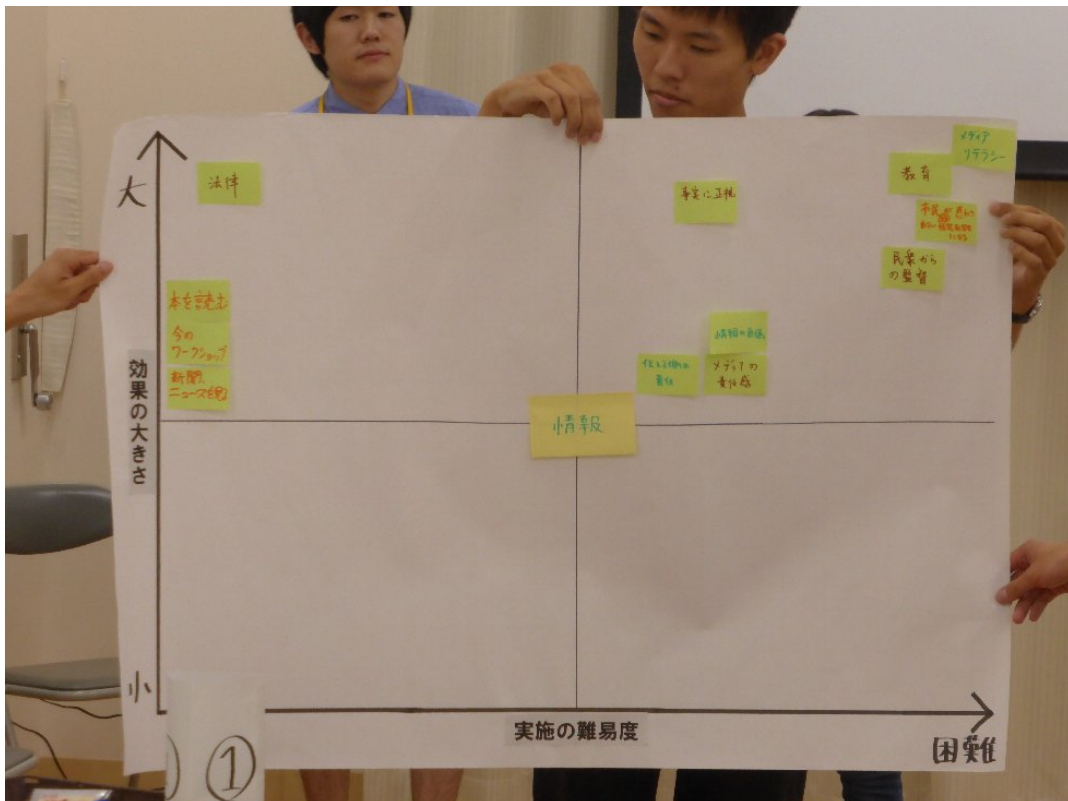


第三グループは「人間の欲」を最も重要な原因として特定した。



続いて、特定された最も重要な項目について、再発防止策、解決策、対応策をブレインストーミングで洗い出し、ブレインストーミングの結果を、縦軸に効果の大小、横軸に実施の難易度を取ったペイオフマトリックス上に貼り付けていき、解決策について意見交換をした。各グループが出した結果を以下に示す。

第一グループは、「情報」に対する対策を考えた結果、「法律」が最も効果が大きく、実施もしやすいという結果となった。



第二グループは、「意識」に対する対策を考えた結果、「コミュニケーション」が最も効果が大きく、実施もしやすいという結果となった。



第三グループは、「人間の欲」に対する対策を考えた結果、効果が大きく実施が容易な項目が抽出できなかつた。一方、実施は難しいが効果が大きい項目として、「欲を捨てる」、「利益を考えない」などの項目が挙げられた。



4. アンケートのまとめ

1) 参加者

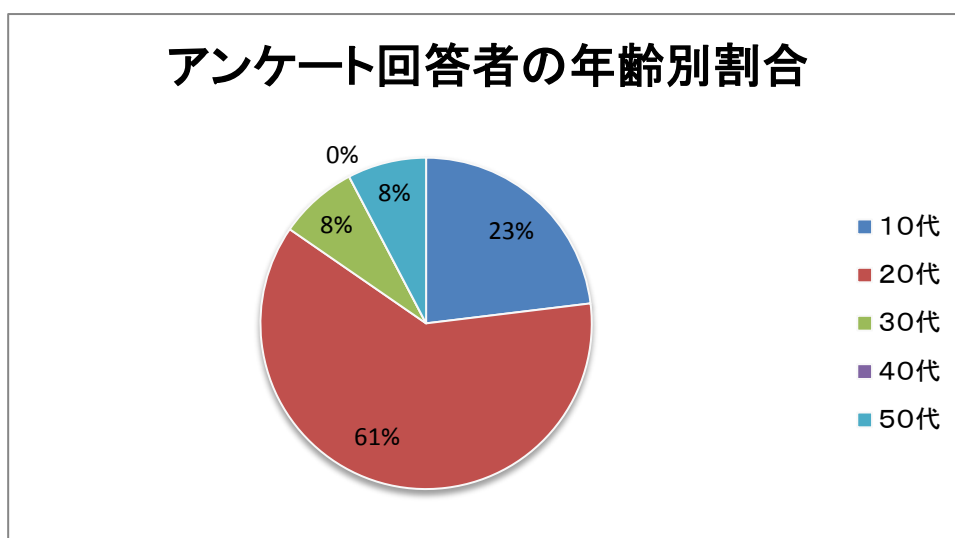
参加者は16名であった。

2) アンケート回答者の年齢・性別・居住地

アンケート回答者は13名であった。アンケートの結果を以下に示す。参加者の年齢は20代が中心であった。また、高梁市外在住の人の方が多かった。

年齢	
10代	3
20代	8
30代	1
40代	0
50代	1

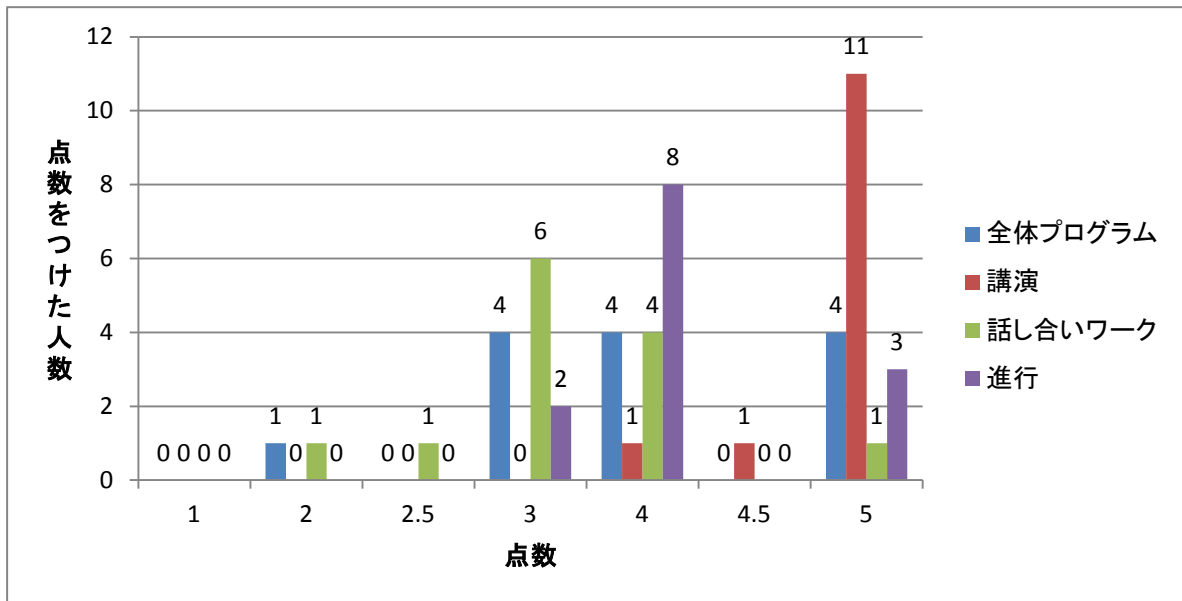
居住地	
高梁市内	5
高梁市外	8



3) フォーラムの評価

フォーラムの評価としては、講演については高い評価であったが、全体プログラムや話し合いワークの評価が低かった。話し合いワークの焦点が絞り切れていなかったことが原因であると思われる。

	1	2	2.5	3	4	4.5	5
全体プログラム	0	1	0	4	4	0	4
講演	0	0	0	0	1	1	11
話し合いワーク	0	1	1	6	4	0	1
進行	0	0	0	2	8	0	3



4) アンケート記載事項のまとめ

①良かった点

- ・ 雰囲気がいい
- ・ 岡崎さんの公演が素晴らしい
- ・ グループ内でみんなばらばらに話し自分の意見を発表できた
- ・ 講演の内容が分かりやすかった
- ・ 色々な話を聞いて良かった
- ・ 実際に話を聞いて新しい発見ができた
- ・ 森永ヒ素ミルク中毒事件のことを知れてよかった
- ・ 話が分かりやすい
- ・ 自分とは違った意見を聞いた
- ・ 日本社会の裏側を少し知ることができた
- ・ 進行がよかった
- ・ 講演を2回に分けたところ
- ・ 岡崎さんの講演から初めて知った事実があり驚きました
- ・ 地元岡山でこのような事件があったこと自体知らなかったなのでこの話を他の人にも伝えたいと思いました
- ・ 講演について理解しやすい
- ・ 事件を見直せた
- ・ 意見交換できた
- ・ 話し合いができた
- ・ 自分が思っていなかったことと違う意見が出て来たのでとても勉強になった
- ・ 経験をもとにした具体的な話が聞けた
- ・ 様々な意見を吸収、学習できた

- ・良い経験になった
- ・全体的に若い参加者
- ・会場が訪れやすい場所（施設）

②悪かった点・改善点

- ・マイクが二本しかなかったのもう一本いる
- ・途中の館内放送が邪魔
- ・参加者が少ない
- ・人数が少なかった
- ・会場の場所が分かりにくい
- ・話し合いの時間が短い
- ・アイスブレイクの紙が机にあるから、アイスブレイクの前に内容が見られる
- ・人がもっとほしかった
- ・今回は一般参加者が少なかったことが課題だと思いました
- ・一部学生が眠そうにしているのが気になりました
- ・市民の参加者が少なかったところ
- ・話し合いがもう少し活発になって欲しかった
- ・話が途切れることがあった
- ・人が集まらない
- ・ワークショップの侵攻がスムーズでなかった
- ・学生（身内）ばかりなので、もっと広く参加者があれば

③感想

- ・学生が動きを把握しきっていない。
- ・参加者が少ないけど内容は良かった。
- ・参加者が少なく、ほとんどゼミ生だったためゼミの時のようになっていたけど、岡崎さんの話を聞いたことでゼミの時より、内容の濃い話し合いができた。
- ・人数が少なかったけれど岡崎さんの話を聞いていろんな、新しい発見をすることができた。
- ・この話をもっといろんな人達にもわかってもらいたいと思った。
- ・ほぼゼミ生だけだったので、やりやすかった。勉強になった。
- ・本日はありがとうございました。
- ・今日は日本社会についてもっと了解しました。やっぱり国と国が違うから同類型事件に処理方法も違います。「情報」、「意識」、「欲」について、これは全部人間の産物です。
- ・事件を見直せて、話し合いができたので良かったと思う。
- ・参加する人が少なかったけど楽しく出来た。もっと情報を知ることが大切だと思った。岡崎さんの話を聞いて中毒事件の恐ろしさが分かったし、この事件は昔の事なので被害者が少なくなっても忘れられないようにたくさんの人に話をし、もっと知ってもらうことが重要だと思った。
- ・エデュカーレで、この題材を取り上げるまで、この事件を詳しくは知らなかったが、

実体験を基にした話は、とても具体的で事件を良い形で学び、その後のワークショップに活用することができた。

- ・現代の若者には馴染みのない話題だが、過去に起こった繰り返すことを許されない事件ということで、原因・背景について勉強になった。せっかくのゲスト、話題なので、何とか広く宣伝し、数多くバラエティに富んだ参加者の会になっていけたらと思った。

5) 実行委員の振り返り

①チェックイン&アイスブレイク

- ・漢字当てクイズは初めての人と打ち解けるにはコミュニケーションが良くとれるし楽しかった
- ・漢字博士がいるとすぐに終わってしまう
- ・漢字は勉強にもなって、楽しくできた

②プログラム全体

- ・良い流れだったと思う
- ・講演を途中で区切っている方が意見を言いやすくてとてもよかった
- ・経験を踏まえた貴重な話が聞けた
- ・休憩が欲しい

③チェックアウト

- ・みんなの意見、思っていることを聞いて良かった

④準備段階

- ・スムーズに準備ができたと思う
- ・宣伝が不十分
- ・内容が難しい

⑤当日運営

- ・お菓子の場所が悪かった
- ・スムーズに進行できていた

⑥良かった点

- ・人は少なかったけどうまくできたと思う
- ・時間は早く終わったのでよかった
- ・みんな動けて準備できていた

⑦気になったこと&改善点

- ・人が集まらなかったのが残念です
- ・マイクが二本しかなかったのが三本は欲しい
- ・人が一人しか来なくて場所も少し分かりにくかった
- ・店内アナウンスが少し気になった
- ・次回はもっと地域の人に声をかけもっと集まってもらえるようにしたい

5. おわりに

第9回エデュカーレ in たかはしは、60年前に起こった森永ヒ素ミルク中毒事件を題材として開催しました。

森永ヒ素ミルク中毒事件を題材として、公害被害者への企業や国の対応がどのようなものであったかを学び、二度とこのような事件が起きないようにするために必要な社会のあり方について議論しました。実際に、岡崎産のお話を聞いてみて、利益を第一とした社会問題が今後一切起こらないように社会のあり方を一から見直す必要があると感じました。まずは私達一人一人が社会問題を理解し何かきっかけを見つけられればと思います。

これからも出てきた課題を一つ一つ解決していき、よりよい意見交換の場を作れるようにしていきたいと思っておりますのでエデュカーレたかはしをよろしく願います。

実行委員長	中谷 雅尚
副実行委員長	大川 朱理
	中村 洸太

6. 付録

1) 配付資料

資料館HPアドレス <http://www3.tiki.ne.jp/~jen-co/hiso.htm> 不定期更新中 コナント自由

2015年(平成27年) 9月10日(木曜日) 16版

国・企業救済策で後手

森永と乳児に被害

食品公害

民の70年 歩んだ道 第2部

1955年 森永製菓の乳児に被害した事件は、原因は西宮一帯の乳児に被害が出た。山形県北地区の乳児に被害が出た。1960年代前半には、全国で被害が出た。被害は、乳児だけでなく、小児にも広がった。被害は、乳児だけでなく、小児にも広がった。被害は、乳児だけでなく、小児にも広がった。

1955年6～8月 西日本一帯で乳児に原因不明の肺炎が頻発。8月 岡山県が森永乳業の粉ミルクに1955年10月 大坂への丸山製菓の粉ミルクに被害が出た。12月 岡山県が森永乳業の粉ミルクに被害が出た。1956年10月 大坂への丸山製菓の粉ミルクに被害が出た。1957年11月 森永乳業が被害を出た。1958年12月 岡山県が森永乳業の粉ミルクに被害が出た。1959年10月 大坂への丸山製菓の粉ミルクに被害が出た。1960年12月 岡山県が森永乳業の粉ミルクに被害が出た。

事件の構図 今も

事件は、被害者だけでなく、加害者にも被害が出た。被害は、乳児だけでなく、小児にも広がった。被害は、乳児だけでなく、小児にも広がった。被害は、乳児だけでなく、小児にも広がった。

森永と茶ミルク中毒事件資料館HP <http://www3.tiki.ne.jp/~jen-co/hiso.htm>

おすすすめFreeDLサーバー

全国民に自覚を促し 医学界まで巻き込んだ 市民作家による名著!

森永と茶ミルク中毒事件 資料館HP <http://www3.tiki.ne.jp/~jen-co/hiso.htm>

HP—運動史—文庫版 <http://www3.tiki.ne.jp/~jen-co/hiso.htm>

森永と茶ミルク中毒事件 発生から50年 資料館HP <http://www3.tiki.ne.jp/~jen-co/hiso.htm>

HP—森永と茶ミルク中毒事件50年史— <http://www3.tiki.ne.jp/~jen-co/hiso.htm>

食の安全 問い続ける

2015年(平成27年) 8月25日(火曜日) 16版

森永と茶ミルク事件60年

被害者の家族 岡崎さん 自宅に公開資料館

「被害者の家族として公開資料館を建てたい」という思いから、森永と茶ミルク中毒事件の被害者家族岡崎さんが、自宅に公開資料館を開館した。資料館には、事件の経緯や被害者の声、そして加害者の謝罪文などが展示されている。岡崎さんは、資料館を通じて、事件の真相を明らかにし、被害者の声を代弁したいと考えている。

1955年6～8月 西日本一帯で乳児に原因不明の肺炎が頻発。8月 岡山県が森永乳業の粉ミルクに1955年10月 大坂への丸山製菓の粉ミルクに被害が出た。12月 岡山県が森永乳業の粉ミルクに被害が出た。1956年10月 大坂への丸山製菓の粉ミルクに被害が出た。1957年11月 森永乳業が被害を出た。1958年12月 岡山県が森永乳業の粉ミルクに被害が出た。1959年10月 大坂への丸山製菓の粉ミルクに被害が出た。1960年12月 岡山県が森永乳業の粉ミルクに被害が出た。

森永と茶ミルク中毒事件 発生から50年 資料館HP <http://www3.tiki.ne.jp/~jen-co/hiso.htm>

HP—運動史—文庫版 <http://www3.tiki.ne.jp/~jen-co/hiso.htm>

森永と茶ミルク中毒事件 発生から50年 資料館HP <http://www3.tiki.ne.jp/~jen-co/hiso.htm>

HP—森永と茶ミルク中毒事件50年史— <http://www3.tiki.ne.jp/~jen-co/hiso.htm>

森永ヒ素ミルク中毒事件資料館 資料

① 1954年 事件前年の森永製菓(親会社)

日独伊親善画 森永製菓(株) 1954年 10月14日 1600名 森永製菓(株) 1954年 10月14日 1600名 森永製菓(株) 1954年 10月14日 1600名

森永製菓(株) 1954年 10月14日 1600名 森永製菓(株) 1954年 10月14日 1600名 森永製菓(株) 1954年 10月14日 1600名

② 事件発生後の森永

戦後初の御用委員会 5人委員会
戦後初の御用委員会 5人委員会
戦後初の御用委員会 5人委員会

戦後初の御用委員会 5人委員会
戦後初の御用委員会 5人委員会
戦後初の御用委員会 5人委員会

⑤ 1990年代、最近の森永 メディア困り込み再開

ATOMOS 日本原子力学会誌 2012.12

「科学的な検証を受けるべき」小島正基、毎日新聞記者会長の原稿

「科学的な検証を受けるべき」小島正基、毎日新聞記者会長の原稿

③ 事件発生直後から活用されている宣伝技術

「わが闘争」を必読指定する組織体あり。

「わが闘争」を必読指定する組織体あり。

「わが闘争」を必読指定する組織体あり。

④ 1988年 事件発生から13年目。事件「再燃」直前の森永 (同じくクルは1953年からNHK主催で一気(全国展開))

森永乳業幹部と電通常務(両元元・森永製菓)の対談

森永乳業幹部と電通常務(両元元・森永製菓)の対談

森永乳業幹部と電通常務(両元元・森永製菓)の対談

乳業の新しい企業イメージを確立

乳業の新しい企業イメージを確立

乳業の新しい企業イメージを確立

電通 戦略十訓

電通 戦略十訓

電通 戦略十訓

全体主義のプロパガンダ

全体主義のプロパガンダ

全体主義のプロパガンダ

「わが闘争」を必読指定する組織体あり。

「わが闘争」を必読指定する組織体あり。

「わが闘争」を必読指定する組織体あり。

電通

電通

電通

日独伊親善画

日独伊親善画

日独伊親善画

ATOMOS

ATOMOS

ATOMOS

第三者意見

第三者意見

第三者意見

第9回 エデュカーレ in たかはし

日本社会の光と影

～森永ヒ素ミルク中毒事件から考える日本社会～

今、なぜ森永ヒ素ミルク中毒事件なのか！！

森永ヒ素ミルク中毒事件は様々な社会課題を浮かび上がらせました。事件後、国は規制強化などを行いました。その後も教訓が活かされていない事件が起きています。福島第一原発事故後の国や企業の対応も森永ヒ素ミルク中毒事件後の対応と共通の力が働いていると考えることができます。

森永ヒ素ミルク中毒事件から60年を経て日本社会はどのように変化したのでしょうか。この中毒事件を題材として、公害被害者への企業や国の対応がどのようなものであったかを学び、二度とこのような事件が起きないようにするために必要な社会のあり方について議論します。

日 時:平成28年7月10日(日)14時00分～17時00分

(13時30分受け付け開始)

会 場:高梁まち・ひと・くらし市民交流センター(ポルカ2階)

備中高梁駅から徒歩10分 〒716-0045 岡山県高梁市ポルカ通り1084-1

内 容

1) 講演「森永ヒ素ミルク中毒事件の60年」

岡崎久弥(森永ヒ素ミルク中毒事件資料館館長)

2) 会場参加型討論会「森永ヒ素ミルク中毒事件から考える日本社会」



参加費無料・申し込み不要(直接おいで下さい)

主 催:エデュカーレ in たかはし実行委員会
協 力:吉備国際大学社会科学部 井勝研究室

問い合わせ先

〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町8
吉備国際大学 社会科学部 経営社会学科
井勝(いかつ)研究室
TEL/FAX:0866-22-9223
E-mail:ikatsu@kiui.ac.jp

「エデュカーレ in たかはし」

学生と市民の皆さんが一緒になって地域課題の解決などについて話し合うフォーラムです。ファシリテーション能力や地域課題解決能力を身につけた人材を育成することを目的として開催しています。

3) アンケート用紙

第9回 エデュカーレ inたかはし

アンケート

年 齢： 10代 ・ 20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代 ・ 70代 ・ 80以上

性 別： 男性 ・ 女性

居住地： 高梁市内 ・ 高梁市外

全体プログラム： 悪かった 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 良かった

講 演： 悪かった 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 良かった

話し合いワーク： 悪かった 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 良かった

進 行： 悪かった 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 良かった

本日のフォーラムの良かった点をご記入下さい

1. _____

2. _____

3. _____

本日のフォーラムの悪かった点、改善点を教えて下さい。

1. _____

2. _____

3. _____

感想をご記入下さい。

ありがとうございました

4) 写真

①受付風景。会場はポルカの市民交流コーナーです。



②実行委員長挨拶（中谷）／総合ファシリテーター（大川）



③岡崎さんの講演



④ワークショップの様子



⑤ワークショップの様子



⑥ピラミッドランキングの発表



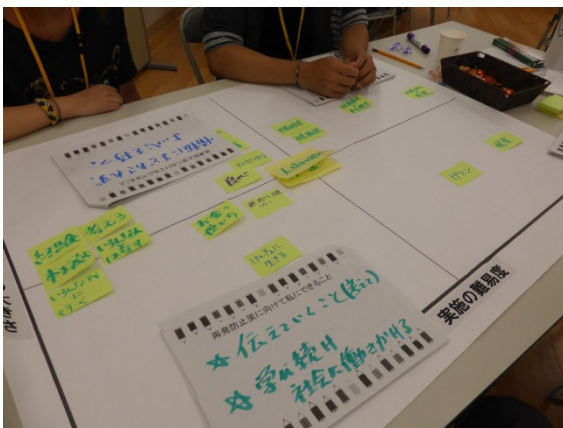
⑦ペイオフマトリックスを考えています



⑧ペイオフマトリックスの結果発表



⑧チェックアウト「再発防止に向けて私にできること」 閉会挨拶（副実行委員長：中村）



実行委員名簿

◇実行委員長

中谷 雅尚 (社会科学部 経営社会学科 3年)

◇副実行委員長

大川 朱理 (社会科学部 経営社会学科 3年)

中村 洸太 (社会科学部 経営社会学科 2年)

◇実行委員

行森 俊紀 (社会科学部 経営社会学科 3年)

楊 涵 (社会科学部 経営社会学科 3年)

蔣 雋二 (社会科学部 経営社会学科 3年)

枝光 広斗 (社会科学部 経営社会学科 3年)

的場 美希 (社会科学部 経営社会学科 3年)

栢原 かなえ (社会科学部 経営社会学科 2年)

井上 健太郎 (社会科学部 経営社会学科 2年)

連絡先

〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町 8

吉備国際大学 社会科学部 経営社会学科
井勝 (いかつ) 研究室

TEL/FAX:0866-22-9223

E-mail:ikatsu@kiui.ac.jp